

# 今津人形芝居保存会

代表者	中村 隆暢
所在地	福岡県福岡市
設立年月日	1891年

## 【設立趣旨】

今津人形芝居は約130年の伝統を誇る県指定無形民俗文化財の人形芝居です。人形芝居は、主遣い、左遣い、足遣いの3人が息を合わせて1つの人形を操ることで、人形の感情を豊かに表現することができます。

今津人形芝居は元々若者の思想善導を目的として始められました。現在は、伝統ある今津人形芝居の普及と伝承を目的として公演活動を積極的に展開しています。



(今津人形芝居保存会提供)

## 【沿革】

今津人形芝居は、江戸時代後期の弘化年間(1844~1848年)に、大原の鯉川弥蔵が若者の善導のために操人形を取り入れる事を思いつき、当時しばしば巡業に来ていた大分県の北原人形芝居(淡路系)から伝授を受け、「大原操り」にしたのが始まりと言われています。

一時衰退の時期を経て、明治初期(1870年代)に大原操人形は、当地の鯉川安右衛門によって復興されました。元来、大原操人形は青年の娯楽と思想善導を目的としていたため、青年組に定年制をしいて、主に青年達の手で演じられてきましたが、座を退いた壮年達がこれとは別に、新座を結成し、青年組との間で技を競い合い、大原操人形の全盛期を迎えました。しかし、この新旧両座の対立が激化し、村の平和が乱れたため、村民協議の上廃止が決定されました。

その後、今津の村長、住職達が伝統ある操り人形の消滅を惜しみ、地区の人々を説得して大原の新旧両座の人形道具一式を譲り受け、新たに今津人形芝居「恵比須座」を1891年(明治24年)3月に結成したのが本保存会の始まりです。

1954年(昭和29年)には、今津人形芝居保存会として再組織され、同時に人形芝居は県の無形民俗文化財の指定を受けました。

1970年(昭和45年)、地元の有力民の尽力で今津人形芝居少年部を組織し、地域の希望する子供達約20名に今津人形芝居の指導を行い、後継者の育成を開始しました。その後も後継者育成には注力を続け、1997年(平成9年)には福岡市からの助成を受け、今津人形芝居後継者育成会(子供組)を組織し、子供への継続的な指導を始めました。それに伴い、練習の成果を発表する場として、定例公演(毎年秋)も実施するようになりました。更に2004年(平成16年)からは、伝統文化活性化国民協会の助成のもと、総合学習の時間を利用して地元の小学校3年生に今津人形芝居の指導を開始しました。

地域との係わりにも重点を置き、1999年(平成11年)には、今津人形芝居後援会を結成し、地域住民からの寄付など保存会活動をバックアップする体制を整えています。

## 【活動目的】

多賀城市の歴史的遺産を継承し、同地域が有する文化財を活用したまちづくりや同市の将来ビジョンづくりの推進を目指しています。また、それらを通じて住民の歴史的遺産への関心や愛着を醸成することも目的としています。

本NPOは、国・自治体による文化行政の流れを好機として、多賀城市との連携をうまく果たし、良好な官民協業を行っています。現在は、「歴史まちづくり法」による補助の獲得に向けて自治体との連携力を活かしつつ、一方で、「行政からの支援期間は経た」として、いかに自立するかという課題を強く認識し、精力的に活動を行っています。

## 【活動内容】

### ●定例公演及び要請上演

本保存会の主な活動として、定例公演と年10回程度の要請上演を開催しています。定例公演は毎年秋に行われ、入場料無料で公開しています。これらの公演には、例年700名もの観客がかけつけており、そのうち4割は地域外からの観客となっています。また、要請上演として、国際交流文化行事には参加要請があれば優先して上演しています。

このように数々の公演を通して、本保存会では今津人形芝居の伝承・普及を図っています。

### ●後継者育成会(子供組)

後継者育成会(子供組)では、通常練習と公演活動を通して希望する子供への定期的な指導を行っています。通常練習では人形操りと三味線・浄瑠璃の練習が行われています。人形操りは土日を原則として週2回、年間24回実施されており、指導は保存会(恵比須座)のメンバーが3~4人で交代で当たっています。また、三味線・浄瑠璃は週1回子供組と大人組へ指導を行っています。

公演活動としては、本保存会の主たる活動である定例公演及び要請上演に参加しており、定例公演前は合同特別総合練習を10回程度実施するなど熱心に取り組んでいます。

### ●地元小学生への人形芝居の指導

2004年(平成16年)から、伝統文化活性化国民協会の助成のもと、総合学習の時間を利用して地元の小学校3年生に今津人形芝居の指導を始めました。週2~3回程度、保存会のメンバーが指導のため学校へ向かっています。このように小学校のカリキュラム

に組み込むことは、継続的に参加者を得ることにつながり、今津人形芝居の後継者育成に欠かせないものとなっています。



(今津人形芝居保存会提供)

## 【活動上の課題と今後の展望】

三味線・浄瑠璃は習得が難しく、後継者の育成が遅れており、現状では公演時に外部の指導者に頼らざるを得ない状況です。そのため、今後は三味線・浄瑠璃の後継者育成により力を入れていく予定です。

また、子供への指導を継続していくため、単年度ではなく、毎年継続して得られる予算の確保も重要な課題となっています。